

「岐阜県スマート農業推進計画[第2期]」策定に係るご意見と回答

＜スマート農業推進協議会への対応＞

・開催日：令和4年10月13日

ご意見等	回答
<p>【表紙ほか】</p> <p>表紙に改訂版等表記してはどうか。また、これまでの成果について記載されたい。</p>	<p>次期計画については、<u>計画名に[第2期]</u>を追記しました。</p> <p>現計画の成果として、これまでの取り組み内容や、目標に対する実績として主要目標として導入経営体数を記載しました。</p>
<p>【P.4】目標値</p> <p>目標に「スマート農業に取り組む産地数」とあるが、単に技術導入した産地としてではなく、収益面やコスト面の改善状況なども検証されたい。</p>	<p>スマート農業に取り組む産地については、収量向上のみならず、収益、コストの改善効果を検証し、その効果をスマート農業技術の産地導入と併せ情報提供し、他産地へ波及してまいります。</p>
<p>【P.4】目標値</p> <p>スマート農業技術導入経営体の目標値 1,300 経営体の内数を「①経営規模拡大」「②誰もが取り組みやすい農業の実現」「③付加価値向上」などに分け明示しておくとしやすく、今後の事後評価や改善点も見出しやすいと考える。</p>	<p>「スマート農業技術導入経営体数」の目標値は、担い手の中心である法人、認定農業者、認定新規就農者がそれぞれの経営スタイルに合わせたスマート農業技術の導入を進める目標設定としております。</p> <p>年度ごとの技術の導入状況調査から、目指す将来像ごとの整理を行うなど、事後評価等に活用してまいります。</p>
<p>【P.10】「(2) 技術の実証」のうち畜産版DX農場</p> <p>畜産版DX農場は県が整備するのか。</p>	<p>県が支援し整備した「飛騨牛繁殖研修センター」を分娩及び発情監視システムなどのスマート農業技術を導入した畜産版DX農場としています。</p> <p><u>本文の文言は「整備」から「設置」に修正</u>しました。</p>

<p>【P. 36】 鳥獣害 現場のニーズに対応した技術・導入効果</p> <p>ドローンによるカワウ追い払いは、大型のドローン、もしくは音が出るドローンでないと、カワウは逃げないことから、自動巡回での追い払いは無理があるのではないかと。</p> <p>ドローンを使用するカワウ被害対策としては、カワウの卵の不活性化を目的とした方法で、卵にドライアイス・流動パラフィンをかける等の対策をお願いしたい。</p>	<p><u>ご意見の趣旨に沿って計画を修正</u>しました。</p> <p>ドローンを活用した卵への流動パラフィンの噴霧などの対策は、カワウの繁殖抑制を効率的に実施するために有益な技術であると考えております。</p> <p>しかし、実装可能な現場条件など不明点が多いことから、まずは試験的实施することで課題などの検証を行ってまいります。</p>
<p>【P. 83～86】 国の事業を活用した取り組み事例</p> <p>スマート農業実証プロジェクト事業は、成果等のまとめも十分なため、農業者の活用効果を紹介し、関係者等が指導に使える情報として掲載するとよい。</p>	<p>実証事業の成果については、県内生産者への紹介資料として活用できるよう、県ホームページにおいて詳細なデータを掲載した資料としてダウンロードできるようにしました。</p>
<p>(該当ページなし) 河川におけるアユ魚群探知技術</p> <p>河川を遡上するアユの動きがセンサーで判れば、河川の遊漁者対策、カワウ対策が可能になると思われる。センサーは河川の水を採取することで個体密度がわかる仕組みが出来ると良い。</p> <p>遡上アユは群れてくるので、魚群探知機的なものでもあれば良い。</p>	<p>環境 DNA 分析は、高額な機器と分析時間を要するため、スマート水産技術として現場導入を図るのは時期尚早であると考えております。しかし、環境 DNA 分析は、川の水を採取分析することで比較的少ない労力で鮎の生息量を評価できることから、ご提案の魚群探知機に代わるものではありませんが、遡上鮎の移動解析などに応用可能な有益な技術であると認識しており、今後、鮎資源の調査への活用について、検討してまいります。</p>

<パブリック・コメントへの対応>

- ・意見募集期間 : 令和4年12月13日～令和5年1月11日
- ・意見募集結果 : 2者16件

該当項目	意見	意見に対する県の考え方
全般	隣の長野県の食料自給率は53%だが、岐阜県の食料自給率は24%と低い。素案には、食料自給率に関する記述が無いので、食料自給率の数値目標と目標を達成するための方法を記述した方が良い。	食料自給率については、県の農業・農村振興に関する最上位計画である「ぎふ農業・農村基本計画」において、水田農業における安定生産、生産基盤の整備、リスクに対応した産地づくりなどに取り組み、向上を図ることとしています。
全般	スマート農業の実証実験をすることは重要だが、農業の大部分をスマート農業に依存するようになると、システム障害やサイバー攻撃（ハッキング）のリスクに晒され、食料安全保障上のリスクになるということを認識する必要がある。 システム障害やサイバー攻撃は必ず起こることを前提として、起こった時にどう安全性を確保するかを議論する必要がある。	ご意見は関係機関等に共有するとともに、今後の施策の参考とさせていただきます。
全般	農業DXやスマート農業を推進すると、業務が効率化され、人手が要らなくなる可能性があるが、その場合、失業率が上がることになる。 つまり、予め、生活保護の補足率を100%に限りなく近づける、あるいは、ベーシック・インカム導入、給付付き税額控除導入等のセーフティ・ネットを強化しておくことが必要不可欠になる。	岐阜県の農業における担い手不足や労働力不足にあたっては、スマート農業技術導入による省力化や生産性の向上に加え、就農者の育成や雇用就農・定年帰農・企業等の農業参入など、多様な取組みを進めています。
全般	スマート農業を実証実験的にやることは重要だが、その前に、人間の農業の担い手を増やすことや、耕作放棄地、休耕地を活用することの方が重要であると考えます。具体的には、耕作放棄地、休耕地を県が借り上げ、公務員を派	ご意見は関係部署に共有するとともに、今後の施策の参考とさせていただきます。

	遣して農業を行うという産業政策が必要である。もし、公務員の数が必要であれば、失業者を雇用する、あるいは、岐阜県警察を動員すれば良い。上記の公務員を派遣して行う農業に、スマート農業を導入するのは一つの選択肢である。	
全般	1、2ページは「ですます調」で記述されているのに、3ページ以降は「である調」で記述されています。1つの計画の中で文体が混用されるのは読みにくく感じました。	ご意見のとおり、計画の中で文体を統一し、 <u>原則として「ですます調」として表記します。</u>
全般	スマート農業は、望ましい農業を実現する一つの手段だと思っておりますが、そうした手段を切り取って一つの計画とした趣旨を教えてください。	スマート農業技術は、県農業が抱える担い手確保や労働力不足解消といった課題の解決に期待される一方で、多くの農業者からは、自らの経営にどういった技術が活用できるかわからない、導入した時の効果が知りたい、という声が寄せられていました。 こうした背景から、本県農業の特徴を踏まえた営農類型ごとのスマート農業技術や導入効果等を記載するとともに、県が重点的に取り組む施策を示すため、本計画を策定しました。
3 目指す将来像 (4ページ)	「4年後の目標」の項目が、3ページ「3 目指す将来像」の内容に沿っていないのではないのでしょうか。3ページの内容から考えれば、軽労化・省力化の程度や単収の向上・品質の向上程度を目標にすべきであって、ここに挙げられた経営体数などはスマート農業の目的ではないのではないのでしょうか。	「目指す将来像」の達成に向け、計画に基づく施策の効果を定量的に測定可能な項目として当面の「4年後の目標」を設定しています。
3 目指す将来像 (4ページ)	「4年後の目標」は、5項目だけですか。スマート農業の理念・目的から考えれば、わずかな部分を切り取っただけのように感じます。	

<p>3 目指す将来像 (4 ページ)</p>	<p>「4年後の目標」にある5品目を具体的に教えてください。</p>	<p>施設園芸品目を中心に、関係者の意見を踏まえ進めてまいります。</p>
<p>3 目指す将来像 (4 ページ)</p>	<p>「4年後の目標」で、「農業DX指導者の育成者数」は手段であり、目標にはなり得ないのではないのでしょうか。目標は、農業DX指導者が何をして、どのようにスマート農業の成果を発揮するかではないのでしょうか。</p>	<p>農業におけるDXを進めるには、体制づくりとして、人材育成が重要であることから、育成者数を目標としました。</p>
<p>4 重点施策 (2) 技術の実証 (9 ページ)</p>	<p>一番下の・に食味マップの作成とありますが、収穫したものが農協のカントリーエレベーターなどに集荷されてしまえば、美味しいものも不味いものも混ざってしまうのではないのでしょうか。美味しいものだけを集荷し、有利販売する方法も合わせて記述してください。</p>	<p>スマート技術を使った技術実証方法を記載しており、販売方法については今後検討してまいります。</p>
<p>4 重点施策 (3) 技術研修 (10 ページ)</p>	<p>「農業DX指導者」と「スマート農業推進員」はどのように違うのですか。両者の違い、育成体系、活動内容がこの計画からはわからないので、説明をお願いします。</p>	<p>農業DX指導者は、スマート農業技術から得られるデータや農業に関係する様々なデータを分析し、農業者に対し経営、栽培改善等を支援できる人材です。 スマート農業推進員は、農業者等へスマート農業技術の効果を普及する人材です。</p>
<p>5 営農類型毎のスマート農業技術 (4) 果樹 (24 ページ)</p>	<p>「果樹園が住宅地に近接する事例が多く」とありますが、逆ではないのでしょうか。「住宅が果樹園の近くに建設される事例が」、ではないのでしょうか。</p>	<p>様々な事例があると考えられますので、「<u>果樹園と住宅が隣接するケースが多く</u>」に修正します。</p>
<p>6 スマート農業技術導入モデル (37 ページ)</p>	<p>ほとんどのモデルで導入効果額が黒字になるのであれば、もっと積極的に導入を促すべきではないのでしょうか。</p>	<p>情報発信・集約や技術の実証、技術研修などを通じ、それぞれの経営の実情に即したスマート農業の推進に取り組んでまいります。</p>

<p>6 スマート農業技術導入モデル (41ページ)</p>	<p>20%削減の下、「※面積」の部分で、このページだけ数値が入っていないようですが。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、<u>面積(16.7ha)</u>を記入します。</p>
<p>9 役割分担 (87ページ)</p>	<p>「9 役割分担」で、市町村に「スマート農業の推進」「技術の実証」とありますが、市町村役場に行けば指導してもらえるのでしょうか。計画の本文中に市町村は出てこなかった気がするので、具体的に教えてください。</p>	<p>市町村は、スマート農業技術の導入に関する啓発・普及など、県等と連携して活動を行っています。</p>